



健康的な天然木材の床

フローリング・ニュース

発行所: 一般社団法人日本フローリング工業会
編集責任者: 広報法務委員長 石本勝範

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6F
TEL 03-3868-0971 FAX 03-3868-0972 <http://www.j-flooring.jp/>

一般社団法人を設立

■日本フローリング工業会の通常総会と一般社団法人日本フローリング工業会の設立総会を3月5日に開催した

久津輪会長の挨拶

フローリング工業会は足かけ80年となる。その間、工業会は業界をリードし、フローリングの普及啓蒙に努めた。前会長、前々会長の代から一般社団法人化を検討してきたが、特にこの数年は多くの議論を重ねて、今日の解散総会、設立総会を迎えることができた。業界を見ると、数字として着目している着工戸数も今年は94万とも97万ともいわれている。

消費増税前の駆け込みもあれば、木材利用ポイントもある。

この制度も3月中には詳しい説明会を実施し、どういう利点があるかを伝えることになる。また、当工業会は合法木材認定制度も実施している。今後も業界のリーダーとして、啓蒙者として取り組んでいきたい。

今日は、一般社団法人化をするという記念すべき日です。十分な議論をしてほしい。



東京・浜松町の浜松町東京會館で開催された通常総会にて監査報告をする中川俊勝監事
=3月5日午後3時51分

工業会の平成25年度の主な活動計画

- ・木材利用ポイント事業への取り組み
- ・各支部と連携したPR活動の充実
- ・フローリング張り標準仕様書の改訂
- ・フローリングジェネラル講習会の開催
- ・合法木材研修会の開催



国産材で合法証明のある木材の利用促進を図る 木材利用ポイント制度の説明会を2回にわたり開催

3月14日と4月5日の2回にわたり、林野庁で行われた木材利用ポイント制度の説明会をうけて、会員向けに制度の詳細を林友ビルの会議室で説明した。

木材利用ポイント事業は、関係者による地域材の需要拡大の取り組みを促進し、地域材需要を大きく喚起する対策として、地域材の利用に対してポイントを付与し、第一次産業をはじめとした地域産業、ひいては農山漁村地域経済全体への波及効果を及ぼす取り組みへの支援を行う。

この事業は、平成24年度補正予算の緊急経済対策の一環として措置されたものであり、平成25年度限りの予算として410億円が措置された。

木材利用ポイントの付与対象となる工事又は製品は、全国事務局に登録された事業者が工事を行い又は製造する

- ①木造住宅
- ②内装・外装木質化
- ③木材製品及び木質ペレットストーブ等

となっている。

このうち、内装木質化の木材利用ポイントの付与対象は、

- ①平成25年4月1日から平成26年3月31日までに工事に着手するもの
- ②登録工事業者等が工事を行うもの

であって、次の要件を満たすもの

- ・9㎡以上の床又は内壁の工事を行うもの
- ・住宅の床又は内壁の室内に面する部分に木材を使用するもの
- ・供給業者が供給する対象地域材（合法木材等の認証材であって、スギ、ヒノキ、カラマツ、トドマツ、アカマツ、クロマツ、リュウキュウマツ、アスナロ）を使用した建築材料であって、登録建築材料又は対象地域材の天然木の板類を使用するもの

が対象となる。

※登録建築材料

表面に板を用いて、下層に板その他の木質系材料を用いた建築材料であって、対象地域材が当該材料の材積の過半を占めるもの

※対象地域材の天然木の板類

ムクフローリングが含まれる

内装木質化工事の木材利用ポイントの付与数は、

- ・床の新築 9㎡ 2.1万ポイント 以降3㎡増えるごとに7千ポイントを加算
- ・リフォーム 9㎡ 3万ポイント 以降3㎡増えるごとに1万ポイントを加算

内装木質化工事のポイント申請に必要な書類は

- ・木材利用ポイント発行・交換申請書
- ・木材利用ポイント工事証明書
- ・木材利用ポイント納品証明書
- ・工事請負契約書もしくは領収書のコピー
- ・工事写真
- ・申請者の本人確認書類のコピー
- ・代理申請者の本人確認書類のコピー



平成25年3月14日 林友ビル5F 中会議室



平成25年4月5日 林友ビル6F 中会議室

フローリングジェネラル育成 WG が毎月 1 回のペースで開催される

平成 25 年秋に大阪で予定しているフローリングジェネラル育成講習会用のテキストを作成するため、森 WG 主査(三勇床工事(株)社長)のもとで大阪から中川協栄木材(株)社長、(株)大晃の濱本常務も参加して、毎月 1 回のペースで WG が開催された。

WG では、主に関西で採用されている直張り工法に対応するフローリング工事標準検査表チェックシート(直張り用)の検討と CD 撮影の検討が行われた。

WG 参加者

WG 主査 :	三勇床工事(株)	森隆之社長
副主査 :	マルコー(株)	田伏大伸社長
メンバー :	(株)ビスムカンパニー	外瀬英規取締役
	丸矢木材工業(株)	矢野伸和社長
	江戸川木材工業(株)	渡部 泰次長
	明石木材(株)	長谷川秀和社長
	(株)平川木材工業	平川典秀課長
	明治リビング(株)	川鍋憲生主任
	協栄木材(株)	中川 登社長
	(株)大晃	濱本 匡俊常務取締役
	工業会事務局	日比野義光専務理事
オブザーバー :	朝日ウッドテック(株)	遠藤昭一グループ長



平成 25 年 6 月 3 日

新設住宅着工状況

4 月の新設住宅着工戸数は 7 万 8 千戸で前月 (7 万 1 千戸) から増加し、前年同月比は 105.8%に増加。木造住宅戸数全体としては対前年同月比で 118.1%に増加し、その中で 2×4 は前年同月比 125.3%に増加

単位：百戸

		総数	木造			非木造	
			軸組	2×4	プレハブ		
H23.4月	戸数	668	353	271	73	9	315
H24.4月	戸数	736	371	283	79	9	365
H25.4月	戸数	779	438	327	99	11	341
	対23年同月比	116.6%	124.1%	120.7%	135.6%	122.2%	108.3%
	対24年同月比	105.8%	118.1%	115.5%	125.3%	122.2%	93.4%
	構成比	100.0%	56.2%	42.0%	12.7%	1.4%	43.8%

国土交通省「住宅着工統計」

中 部 支 部 だ よ り

佐藤正明・中部支部（佐藤工業株式会社）

中部支部は、メーカー2社、施工流通7社で、事業は官庁PR、研修会、情報交換会などの活動を行っています。日本フローリング工業会60周年の記念誌“フローリングのあゆみ”によりますと、フローリングの創業期(大正)は横浜に工場が出来始め、関東が生産中心地であったが、関東大震災により、東京、横浜の工場は潰滅し、名古屋に生産の中心が移ったため、フローリング生産のメッカとなり、紡績工場～進駐軍兵舎～百貨店～学校等の公共建築物などその時代の需要に対応してきました。

私が昭和50年5月に入社しましたが、当時は学校建築ブームで、毎年学校建設が計画され、それらの需要に対して受注することより、国内外から原材料を集め、どのようにお客様に安定供給するか、年度末に集中する物件の職人をどのようにやりくりして施工をこなすかがポイントでした。

その後、学校物件は減少し、住宅向けの塗装フローリン

グ、床暖房フローリング、直貼フローリングの新しい多種多様なフローリングの登場により、マンション、店舗など使用用途も広がり、“フローリング”という単語が日常会話になるようになりフローリングのブームとなりました。その反面、世界中から輸入フローリングも増加し、国内製品と価格面、品質面で激しい競争が続いています。

行政面では平成22年10月に施工された「低層公共建築物木材利用促進法」で国産材利用拡大、内装の木質化の推進が図られ、今年の4月1日から「木材利用ポイント事業」がスタートし、その概要が徐々に判明してきました。フローリング業界にも必ずや追い風なるのではと期待しています。

リーマンショック以来、不況が長く続いています。アペノミクス効果に期待し、会員が初心に帰り、プロ意識に徹し、英知を出し合い、研鑽し、ポジティブな考えで、この苦境を打破出来るのではないかと考えます。

ひとこと

松村修身・中部支部（株式会社静岡床工事）

日本フローリング工業会に入会して早いもので、数十年が経過しました。

私が建材会社に勤務後、昭和53年に会社を設立して35年余りが経ってしまいました。当時は建設ブームの真っ只中で、毎年、県、市町村で計画される学校建設、体育館の建設で、床フローリング張りに追われていたことを思い出します。フローリング張工事は年度末に集中し、職人のやりくり、又、材料の手配も大変な時代だったと思います。教室のフローリングブロック張りは湿式工法の為、砂、セメントの荷揚げ、荷降ろし、移動には苦労しました。価格の競争はありましたが、それでも安定していました。

現在では、施工方法も変わり、フローリングブロックは、接着工法、塗装品と体育館のフローリング張も以前の「特殊張り」から「のり釘併用工法」と工業会では安定、安全、長期耐久性を求め、進化してきました。

現在では、少子化が進む中、学校建設等の物件は減少し、その上、価格競争による見積価格だけが一人歩きしてしまう、今までに経験した事が無い先行きどうなるか見通しが見えない現状です。材料価格があがっているのに、ゼネコンペースに成ってしまう。アペノミクスは我々の業界には、現在関係の無い状況です。何とかこの苦境を乗り越えなければと考えます。

人間は、不幸には敏感で幸せには鈍感とどなたか言っていましたが、その通りです。早くピンチをチャンスに活かせる様、前向きで考えようと思います。

不透明感が拭えない日本経済ではありますが、心に響くこんな言葉を思い出しました。プロの世界では明るい未来はだれも保障してくれない。やってもやっても結果が出ない事もある。しかし、そこで諦めては、その先、進歩は絶対に無い。目に見えて進歩していなくても少しでも前に進む意欲を持ち続ける人は、たとえ時間が掛かってもいい結果を残している。

何事においても成功は継続的な情熱、努力の向こうにある。将棋界の七大タイトルを独占した羽生善治氏の言葉です。この世界にも通じる事だと思えます。着実に歩みを止めずに進んで行きましょう。

● 広報法務委員連絡先

委員長	石本 勝範	06-6538-7221
委員	松原 由典	0123-72-1223
委員	矢野 伸和	047-353-2100
委員	佐藤 正明	0547-45-2174
委員	當舎 弘造	072-276-1600

● 告知板

7月12日(金)	・・・平成25年度第2回理事会
10月17日(木)	・・・平成25年度施工流通部会総会
11月8日(金)	・・・平成25年度生産部会総会

● 会員動向

平成25年6月1日時点

正会員	59社
賛助会員	18社
合計	77社

会員会社の広告

掲載したい会員会社の方は、
広報法務委員までご連絡をお願いします。

編集後記

林野庁の木材利用ポイント制度が4月にスタートしたものの、制度設計がおおまかにまとまったのが5月の連休明け、全国事務局の体制整備は6月中旬までかかりそうな雲行き。そんなわけで供給事業者登録も会員に苦労かけている。また、木材製品の登録も複合フローリングをイメージした様式で、単層フローリングは、どこに該当するのか解りにくい。

しかしながら、林野庁の担当者も不眠不休で頑張っているの、関係者の皆様まずはご苦労さまです。

